

令和7年度 上尾市立大石北小学校 学校評価（自己評価）①まとめ

〈学校評価の自己評価とは〉学校評価は、児童がよりよい教育を受けることができるよう、学校が自らの教育活動の成果を検証し、学校運営を改善し、その教育水準の向上を図ること、また、自己評価を公開し、保護者・地域の皆様の御理解を得て、学校・家庭・地域とが連携して児童を育てていくことを目的としています。学校評価の実施は学校教育法に定められています。自己評価は、児童・保護者に実施したアンケートを参考資料として作成しています。

〈評定の基準〉

A：目標をよく達成できた状態（達成度9割以上） B：目標はほぼ達成できたが改善が必要な状態（達成度7割以上） C：目標を達成できず、顕著な課題がある状態（達成度7割未満）なお、達成度は3又は4の評価の割合を基準とします。

領域	学校評価項目	自己評価	評価
A 信頼される学校運営	1.児童一人一人の多様性を認め、自己を素直に発揮でき、友達の失敗や短所も寛容に理解し合うことができる、共感的な学級をつくる。	児童一人一人が学期ごとに目標を立てたり、帰りの会などでよいところを認め合う活動を取り入れたことで、失敗も短所も許容する共感的な学級づくりを行うことができました。授業や給食などで特別支援学級児童との交流を行い、一人一人に共生社会の一員としての意識を高めることができました。昨年同様に教科担任制を導入し、学年の児童を学年担当教員全員で指導することができました。そして、児童の99%が「先生は、よいことはほめ、わるいことは正してくれます」としています。	A
	2.「個別最適な学び」と「協働的な学び」のベストミックスを研究し、主体的な学びを創造する。	学校課題研究として「個別最適な学び」と「協働的な学び」のベストミックスを研究し、児童に自己選択と自己決定をさせる手立てを図ることで、児童に主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせることができました。「大石北小のふりかえり」として「自分・友だち・これから」の視点を定めたことで、自己の学びを振り返るとともに学びを調整する態度を育成することができました。児童の96%が学習にしっかり取り組んでいるとしています。	
	3.様々な人権課題に対して正しく理解し、人権感覚を身に付け、人権課題を解決しようとする児童の育成に努める。	道徳授業の充実のほか、人権作文や人権標語などに取り組みました。また、国や県の資料をもとに児童の発達段階に合わせた人権教育計画を設定し、人権感覚プログラムなどを活用して児童の人権感覚の向上を図っています。保護者の94%が学校の雰囲気がよく児童が楽しく学校生活を送っているとしています。	
	4.児童一人一人が個性や能力を発揮して行動できる環境づくりに努める。	児童理解・生徒指導についての教職員研修を行うとともに、校内で生徒指導・教育相談・特別支援教育について全教職員が分掌組織に参加し、連携しながら共通理解を十分に行うことができました。関係職員でのいじめや生徒指導等に関する対策会議及び保護者、関係機関との連携を推進した結果、100%教職員が組織的な環境づくりに努めているとしています。	
	5.教職員が課題を共有できる傾聴的な組織となるよう努める。	教職員の100%が傾聴的組織であると評価しているように、課題を共有して業務にあたることができました。しかし、個々の職員の業務については多岐にわたることもあり、時間外在校等時間平均の縮減は2時間程度に留まりました。今後も業務の焦点化や会議設定のタイミングなどについて改善を進める必要があります。	
<p>【学校関係者評価】</p> <p>○帰りの会などでよいところを認めあう活動を取り入れ、失敗も短所も許容する共感的な学級づくりを行うことができたことで、児童の99%が「先生はよいことはほめ、わるいことを正してくれます」と回答していることは、素晴らしい結果である。また、保護者の94%が「学校の雰囲気がよく、児童が毎日楽しく学校生活を送っている」と回答していることでも学校側の努力の成果が表れていると感じた。</p> <p>○挨拶を6年生自ら行うなどすてきだと思う。自己評価も保護者も児童も高評価でよい学校であると思う。</p> <p>○先生・児童の評価が高いのはよい。</p> <p>○全体的に評価が良いのは、学校の雰囲気がよいこと、保護者も児童も楽しんで生活していることが伺われ、素敵なことである。（安心・信頼）</p> <p>○学校運営協議会委員として、学校運営に参加でき、グランドデザインにも目指す家庭・地域像を加えていただき、ありがたかった。教職員が課題を共有できる環境づくりに努めていただきたい。</p> <p>○校長をはじめとする各先生の優しさ、厳しさ、責任感等が随所に感じられる。</p> <p>○子供たちは、他者を思いやる気持ちを学校・家庭・地域や子供たち同士で自然と身に付けていると感じる。それと同時に、もう一步踏み込んだ関係性を苦手としているように感じる（保護者同士の人間関係も）。日々の生活でも信頼関係を築くことの難しさを感じますが、何か気付いたことがあれば連絡をくださる、見かけたら声をかけてくださる、北小全体ではそのような空気が流れていて、とても信頼できる小学校と感じている。</p> <p>○学校でよいところを認め合ったり、教科担任制を導入したりして、学年の児童を学年教員全員で指導したことが共感的な学級づくりにつながった。</p> <p>○児童の自己選択と自己決定をさせることにより、主体的に学ぶ姿勢が身に付いた。</p>			
B 豊かな教育活動	6.児童一人一人が「自分のこととして」深く考えることができる道徳の授業を行う。	学年担当教員が学年でローテーションを組んで授業を行うことにより、教材研究をより深く行うとともに、多面的な児童理解につながりました。児童に対しても様々な教員の授業を受けることで多様な学びの機会をつくることができました。心の教育については保護者の89%が学校の取組をできていると評価しています。	A
	7.児童が安全に対する意識をもって、主体的に運動する体育の授業を行う。	体育科授業研究会を行うとともに、特に3～5学年では教科担当とし、運動量の確保や規律などの安全面についての指導を統一して行うことができました。児童の90%が運動をすることが好きだと答えています。しかし、体力低下の課題があるため、学校での体力向上の取組について検討をする必要があります。	
	8.健康・食・安全に関する教育を、計画的に実施し、児童が適切な行動をとることができるように指導する。	栄養教諭・養護教諭が関わる授業を全学年で実施しました。また、アレルギーや身体的に配慮が必要な児童については全教職員で対応を確認・共有をしました。避難訓練は、火事、不審者、地震の想定で3回実施しました。施設の点検については、教職員による定期点検の他、学校運営協議委員会にも点検を行っていただき、安全対策を講じることができました。教職員の90%が児童が適切な行動をとるために必要な指導ができていると評価しています。	
	9.「上尾市英語力向上プラン」に基づいて、ALTと連携を図り、主体的な活動を取り入れた外国語等の授業を工夫する。	6学年では小中一貫教育の視点から、大石小と同じ外国語専科教員が、3～5学年では学年の教科担任がALTとともに、児童が楽しくコミュニケーションをとる活動を中心に授業を行いました。6学年では、複数のALTとオンラインで交流する活動を行い、直接ネイティブスピーカーと英語でやりとりをする場を設定しました。1・2年生の授業は公開授業を行いました。児童の92%が英語の授業が楽しいと答え、保護者の89%が教育を適切に実施しているとしています。	

	<p>10.情報に関するルールなどを家庭と連携して定着させ、「安全・責任・相互尊重」を重点とした情報モラル教育を計画的に行う。</p>	<p>学習者用端末の使用は日常となり、児童は学習における課題提出や自習課題、宿題での活用ほか、係活動など学校生活の中で端末を使いこなすことができるようになっていきます。来年度からは各学年の端末技能段階を整理して指導する予定です。教職員の87%が家庭と連携していると評価しましたが、個人所有の端末によるSNSトラブルが発生するなど、情報モラル教育について、さらに家庭との連携や情報発信について工夫していく必要があります。</p>	
	<p>11.身の回りの環境と積極的に関わり合い、主体的に行動できる教育活動を工夫する。</p>	<p>環境委員を中心におよびの会やPTAと協力してビオトープを維持しています。また、児童の主体的な学びの場として、校舎内にくすどり自然博物館を学習に活用するとともに、生き物を身近に感じられるようにしています。1学年の鈴虫の観察、昔の遊び体験、2学年のさつまいも体験、ホテル観賞会等の学びは学校応援団や企業の協力を得て行いました。</p>	
<p>C 健全な児童の育成</p>	<p>12.いじめ防止基本方針に基づいて、いじめの早期発見・早期対応を組織的に行う。</p> <p>13.不登校・長期欠席児童には、対応マニュアルに基づいた支援、早期発見・早期支援を組織的・計画的に対応する。</p> <p>14.清掃活動、係・当番活動、委員会活動等を通して、人のために進んで働き、共に助け合って生活する態度を育成する。</p> <p>15.図書館支援員と連携して、読書に親しむことができる取組を工夫する。</p>	<p>【学校関係者評価】 ○栄養教諭・養護教諭が関わる授業を全学年で実施したことや、アレルギーや身体的に配慮が必要な児童について全教職員で対応を確認・共有していることで、保護者の94%が「学校は、生徒の健康や安全、事故防止に配慮した教育活動を行っている」と回答している一方で、教職員の90%が「児童が適切に行動をとるために必要な指導をできている」と評価しており、全体的に保護者の評価が、教職員や児童の評価よりも低い傾向にある中で、この点に関しては、保護者の評価が上回っており、評価できる。 ○また、2年生の英語活動を参観したが、児童の92%が「英語のじゅぎょうは楽しいです」と回答しており、低学年から外国語授業を始めても問題ないと思った。 ○やや保護者の評価が低いですが、通常この形になるものである。だからよいというわけではないが、仕方のない部分であり許容範囲内であると思う。 ○ALTと授業以外で触れ合う機会を増やせないか（英語Dayなど） ○統計で児童の体力低下が言われているため、検討すると記載があるので期待したい。 ○担任だけでなく、他の教員の授業を受けられるのはよいと思う。 ○上尾市の英語力向上プランに基づき、実施されていること、私たちが参観でき、先生方の力の入れようが伝わってきます。子供たちが楽しそうに授業を受けている姿が素晴らしいです。 ○豊かな緑に囲まれ、申し分のない環境であると思う。 ○英語活動の授業では、体を動かしながら、聴いて、見て、話して、クラスメイトと共有する姿を見ることができた。家でも「Yes,I do!」と答えてくれたりと身に付いていることを実感している。“分からない、知らないから苦手”ではなく、“新たに知ることが増えること、分かることの楽しさ”を教えていただいていると感じる。 ○学習における課題提出や自習課題、宿題での活用など端末を使いこなすようになったが、個人所有の端末によるSNSトラブルなどが大きな課題となっている。家庭との連携をさらに深め、情報モラル教育を推進してほしい。</p> <p>いじめ認知を積極的に行い、生徒指導部会やいじめ防止対策委員会を通じて早期対応と未然防止に努めました。聞き取りや経過観察の際には、複数対応を原則とすることで、客観的な対応ができるようにしています。いじめの認知件数は、12月末時点で78件でした。また、いじめ防止及び対応に関する教職員研修を行う他、クラスでの標語づくり、いじめ防止サミット報告会等の取組で児童の意識向上を図りました。</p> <p>年度当初の対応マニュアルの確認の他に3回教育相談研修を実施し、担任を中心として個別に対応しました。児童や保護者の思いに寄り添った対応を検討するとともに、市の様式を活用して支援引継を確実に行う体制としています。また、教育センターやSC、医療などの関係機関への接続を強化しました。教職員が対応するSSRを毎日開設し、対象児童に個別に対応し、週1回配置のSRTと担任の情報共有も行いました。病気や経済的な理由を除いた30日以上欠席児童数は、12月末で13人でした。</p> <p>清掃ではMSK（もくもく・きびきび・すみずみまで）を合言葉に、期間中はほぼ全ての児童が目標を達成していました。くすどりクリーンDAYには多くの保護者が参加し、校内美化を推進することができました。係・当番活動での一人一役分担などの役割を果たす経験を積めるようにしたり、全校で「がんばるん」に取り組むことにより、相互によさを認め合うことで、自己有用感を高めることができました。児童は97%は掃除や仕事にしっかり取り組んだと評価しています。</p> <p>図書館環境を整え、読書に興味関心を引くような仕掛け（例：読み聞かせ会、ビンゴ、すてきな言葉集め、54字の物語、本の福袋、大石北小大ピンチ図鑑）をしました。貸出冊数は一人あたり60冊近くまで伸びました。教職員の97%が図書館支援員と連携して取り組むことができたとして評価しました。しかし、保護者の39%は家庭読書は不十分であると評価しました。家庭での読書習慣の定着は本校の課題といえます。家庭読書の日の取組の工夫をはじめ、保護者・地域への情報発信を含め、さらに連携した対応が必要です。</p>	<p>B</p>
		<p>【学校関係者評価】 ○いじめ防止対策や不登校・長期欠席児童への対応について、教職員の100%が組織的に対応していると評価しているが、保護者の90%が「教職員は、児童や保護者の相談に親身になって応じている」、児童の92%が「こまったときは、先生にそうだんしています」と回答しており、ギャップが少々あり、これを少なくする必要があります。 ○学校での読書は、支援との連携で本の貸出冊数は一人あたり60冊近くまでに増えてきましたが、家庭での読書は不十分なようです。家庭での読書習慣を身に付けていくには家庭環境の整備が必要ですし、それが難しい場合は、放課後に学校図書館を利用した読書の場を提供という考え方があってよいのではないかと思います。 ○読書はYouTubeやゲームなど、子供にとっての環境は最悪である。動画はいつでも自動で与えてくれるので、良くない。 ○読書については、本と合わせて、タブレット書籍も選択肢に加えるとよい。アナログ+ITのミックスができればもっと伸びると思う。 ○家庭読書の日は早帰りではなく、学校で授業の時間に組み込んでみるのはいかがでしょうか。 ○私としては、評価はB→Aでよいと思う。時々学校に来ているが、明るい挨拶、委員会活動はすばらしい。 ○読書に親しむ、定着化させる方法は図書委員を含め学校運営協議会でも話し合ってみよう。 ○子供たちは廊下ですれ違えば、挨拶をしてくれる。 ○図書室に頻繁に来て、本を借りる習慣がついている。 ○小学校での出来事、登下校時の気になったことがあると「先生に話してみようかな」と言っている。日頃から「先生に聞くこと、相談すること」のハードルが高くなく、先生がいつでも聞く姿勢でいてくれることを実感している。 ○家庭読書の日は、子供たちにとって、4時間でたくさん遊べる日という認識で、あまり活用できていないと感じる。 ○清掃活動では、MKSを合言葉として目標を達成でき、活動に意欲的に取り組めたことはすばらしい。 ○図書の貸出冊数が一人あたり60冊近くまで伸びたことは図書支援員との連携による取組等の成果によるものだと考える。</p>	

D コ ミ ュ ニ テ ィ ・ ス ク ー ル	16.家庭・関係機関と連携を図り、個に応じた指導を充実させる。	児童の多様な課題に対して、学校が家庭と丁寧な相談を行い、必要に応じて関係機関と連携した件数が増加しました。特別な配慮を必要とする児童については面談を重ね、教育支援プランを作成して、保護者と合理的配慮の形成を行いました。アプピスマイルサポーター4名を低・中学年に重点配置し、学習などの学校生活における支援を充実させました。教職員の97%は指導の充実を実感しました。	B
	17.地域の方やゲストティーチャーなど、多様な人との関わりをつくる。	学校応援団や企業等の方をゲストティーチャーとして迎えた授業を学校公開時に行い、保護者が参加できる形にしました。毎日の登下校時の見守りでは、児童の安心安全の確保のために登下校路についての情報交換を行うなど、多くの方の支援をいただきました。挨拶については地域の方や保護者アンケート等から課題として指摘を受けており、高学年を中心に自主的なあいさつ運動等が見られますが、意識が高まるよう継続して取り組んでいきます。	
	18.学校運営協議会・PTA・学校応援団・他機関等を活用して、豊かな教育活動・学校行事を工夫する。	今年度から実行委員会が主催となった北小まつりでは、家庭や地域の関わりを深めるとともに、児童も実行委員会Jr.として運営に参加することができました。保護者アンケートで指摘のあったPTA活動については、スリム化に向けた会議・打合せを重ね、来年度の活動は大幅に変更します。教職員の87%、保護者の87%が、学校がコミュニティ・スクールとして地域と連携し、豊かな教育活動や学校行事を工夫しているとしました。	
	【学校関係者評価】 ○地域との連携では、ゲストティーチャーの授業にも保護者が参加できる形にしたことは保護者の理解を高める上でよいことだと思いますが、教職員の評価が80%と比較的低いのはなぜでしょうか。地域には、色々な方がおられると思うので、地域の方々の協力をもっと得られるような仕組みづくりができればよいと思う。 ○地域が頑張るので、もっと課題を提示してほしい。 ○本人が希望すれば、地域の方の紹介（動画含む）の機会があると認知が進むのではないかと。 ○北小まつりはよかった。実行委員会Jr. 次年度は人数・役割が増えるとよい。 ○北小まつりに高学年が参加することはすばらしい。これからも続けてほしい。 ○地域の方のゲストティーチャーなど多様な人との関わりは必要である。協力できる人は大勢いると思う。 ○地域の方々が積極的に関わりをもち、動いてくれていると思う。 ○地域の方が子供たちのことを他人事ではなく、この地域の一員の大切な事ととらえて、関わってくださっていることを保護者として日々実感している。 ○大石北小には地域の方やPTA（保護者）が学校を訪れる頻度も高く、開かれた学校だと感じている。 ○高学年を中心に自主的なあいさつ運動ができたことはすばらしい。今後、全校的なあいさつ運動になることを期待する。		

【用語解説】

人権感覚育成プログラム	児童生徒が自分の大切さとともに、他者の心の痛みや感情を共感的に受容する想像力や感受性、意欲等を育成することを目的とした埼玉県作成のプログラム集
上尾市いじめ防止子供サミット	児童生徒一人一人がいじめを許さないという強い意志を持ち、自分たちの手でいじめを未然に防ぐという意識を高めることを目的として毎年12月下旬に実施
SC（スクールカウンセラー）	いじめや不登校など、学校・家庭における悩み事の相談を専門とする。本校では月1回来校
SSR（スペシャルサポートルーム）	教室に入りにくい児童が学習などを行い、教室につながるようにすることを目的とした部屋
SRT（サポートルームティーチャー）	SSR担当支援員。本校では毎週木曜日に来校
がんバルーン	本校の学校課題研究における取組。自分ができるようになったことや頑張ったことを風船の形の紙に貼って掲示

令和7年度 上尾市立大石北小学校 学校評価（自己評価）②割合表

	自己評価（30人）	肯定的評価の割合	【参考】保護者アンケート結果（482人）	肯定的評価の割合	【参考】児童アンケート結果（659人）	肯定的評価の割合
A 信頼される学校運営	児童一人一人の多様性を認め、自己を素直に発揮でき、友達の失敗や短所も寛容に理解し合うことができる、共感的な学級をつくる。	93	学校は、児童の学力向上のために分かりやすい授業を行っている。	93	生活のきまりを守って生活しています。	97
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」のベストミックスを研究し、主体的な学びを創造する。	93	学校の雰囲気がよく、児童が毎日楽しく学校生活を送っている。	94	話をよく聞いて、学習にしっかり取り組んでいます。	96
	様々な人権課題に対して正しく理解し、人権感覚を身に付け、人権課題を解決しようとする児童の育成に努める。	97	学校は、児童の個性や能力に応じた指導を行っている。	88	先生は、よいことはほめ、わるいことは正してくれます。	99
	児童一人一人が個性や能力を発揮して行動できる環境づくりに努める。	100				
	教職員が課題を共有できる傾聴的な組織となるよう努める。	100				
B 豊かな教育環境	児童一人一人が「自分のこととして」深く考えることができる道徳の授業を行う。	90	学校は、児童の心の育成にしっかりと取り組んでいる。	89	運動をすることが好きです。	90
	児童が安全に対する意識をもって、主体的に運動する体育の授業を行う。	97	学校は、児童の体力向上にしっかりと取り組んでいる。	87	安全に気をつけて、登下校しています。	99
	健康・食・安全に関する教育を、計画的に実施し、児童が適切な行動をとることができるように指導する。	90	学校は、生徒の健康や安全、事故防止に配慮した教育活動を行っている。	94	英語のじゅぎょうは楽しいです。	92
	「上尾市英語力向上プラン」に基づいて、ALTと連携を図り、主体的な活動を取り入れた外国語等の授業を工夫する。	93	学校は、外国語教育を適切に実施している。	89		
	情報に関するルールなどを家庭と連携して定着させ、「安全・責任・相互尊重」を重点とした情報モラル教育を計画的に行う。	87	学校は、連絡や児童の指導においてICT機器を効果的に活用している。	89		
	身の回りの環境と積極的に関わり合い、主体的に行動できる教育活動を工夫する。	97				
C 健全な児童の育成	いじめ防止基本方針に基づいて、いじめの早期発見・早期対応を組織的に行う。	100	教職員は、生徒や保護者の相談に親身になって応じている。	90	こまったときは、先生にそうだんしています。	92
	不登校・長期欠席児童には、対応マニュアルに基づいた支援、早期発見・早期支援を組織的・計画的に対応する。	100	学校は、児童の生活指導を適切に行っている。	92	そうじやしごともしっかりと取り組みます。	97
	清掃活動、係・当番活動、委員会活動等を通して、人のために進んで働き、共に助け合って生活する態度を育成する。	97	児童は、家庭でも読書活動を行っている。	61	クラスや図書室の本をよく読んでいます。	82
	図書館支援員と連携して、読書に親しむことができる取組を工夫する。	97				
D コミュニティ・スクール	家庭・関係機関と連携を図り、個に応じた指導を充実させる。	97	学校は、教育活動や諸連絡等を分かりやすく発信している。	89	自分から進んであいさつをします。	86
	地域の方やゲストティーチャーなど、多様な人との関わりをつくる。	80	学校は、コミュニティ・スクールとして地域と連携している。	87		
	学校運営協議会・PTA・学校応援団・他機関等を活用して、豊かな教育活動・学校行事を工夫する。	87				

<成果・課題を明確にするために>

桃色は95%以上で本校のよい点

黄色は85%以下で来年度の課題とする